

■第4回 沖縄交通リ・デザイン実現検討会 議事録

日時：2024年3月25日（月）13:30～15:10

場所：那覇第2地方合同庁舎1号館2階大会議室+Teams

出席者（順不同）：

- ・ 株式会社琉球銀行 具志氏（代理出席）
- ・ 沖縄振興開発金融公庫 大西氏
- ・ 沖縄県商工会議所連合会 新垣氏
- ・ 一般社団法人沖縄県経営者協会 田端氏（オンライン参加）
- ・ 沖縄電力株式会社 川満氏（オンライン参加）
- ・ 一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー 金城氏
- ・ 一般社団法人沖縄県バス協会 慶田氏
- ・ 一般社団法人沖縄県ハイヤー・タクシー協会 大城氏
- ・ 沖縄都市モノレール株式会社 上原氏
- ・ 沖縄県企画部 谷合企画振興統括監（オンライン参加）
- ・ 沖縄県土木建築部 金城建築都市統括監
- ・ 沖縄県文化観光スポーツ部 大城氏（代理出席）
- ・ 内閣府沖縄振興局 野本参事官
- ・ 沖縄県総合事務局 星部長
- ・ 内閣府沖縄総合事務局運輸部 企画室 村上室長
- ・ 内閣府沖縄総合事務局開発建設部 建設産業・地方整備課 新城氏（代理参加）
- ・ 内閣府沖縄総合事務局開発建設部 道路建設課 屋我課長

※配布資料

（資料1）PI第2フェイズ 実施結果報告

（資料2）今後の取組の進め方について

（参考資料1）PI第2フェイズパンフレット

（参考資料2）沖縄県わったーバス利用促進乗車体験事業概要案

■事務局より資料1、資料2に基づき、PI第2フェイズの実施結果報告及び今後の取組の進め方について説明後、意見交換を行った。

■内閣府沖縄総合事務局星運輸部長より意見交換の冒頭で挨拶

- ・ 今回の取組は構想段階からのPIという最新の手法であり、アンケートでは出てこない声を集められたと思う。多様な声をお互いに認識して認め合い、ともに考えていく場を作っていくと、自然と市民の方々が社会の一員と認識し、自分の声に自信を持ち、能動的に役割を果たしていく事を証明できたと考えている。また、市民の方々の共同性を再構築することに大きく寄与しており、公共の役割をもう一度再編していくことにつながるという事をお示しできたと思う。成長を阻害する要因にもなり得る県内の移動を改善する事で、沖縄の生産性、事業の収入、県民の所得のさらなる成長にもつながると考えており、今後皆様の助力を頂きながら推進していきたい。
- ・ 今回のPIの結果は市民に共有しなおす事が必要。現状の課題、声を市民に共有し、次のアクションを引き出す事がすべてのスタートであり、このような取り組みを市民・企業・行政は一体となって行動していくことが重要である。今回のPIの結果における皆様の率直な意見にもとづいて、今後どのように進めて行くべきか議論していきたい。

■意見交換の主な意見は以下の通り

- ・ プラットフォームに関して、経済団体と県・国がともに取り組んでいく上で共同事務局がどのような役割を担う等の調整が必要。今回のPIで得られた声のように多くの県民がライフスタイルの変更を行う必要があるというのと同じ認識。経済団体としてもバス無料デー、ノーマイカーデー、時差出勤の推奨等の具体的な役割の検討を行いたい。
- ・ プラットフォームは歓迎するが、今後具体的に何を行うか検討が必要。経済界ができる事として、ノーマイカーデー、時差出勤・テレワーク等の取組を推し進めていきたい。また、モノレール駅の交通結節点化の検討にも注目している。
- ・ 県民の皆様は非常に合理的な考えを持つと実感した。我々は今年度、外国人の沖縄観光への調査を行っており、モノレール・バス利用が増加傾向にあり、自動車を使いづらい方は自然と公共交通を頼りにしていると認識。脱炭素関連の制度やその他融資制度を有しているためそのような制度・PRを活用しながら、協力していきたい。
- ・ 1人が変わっても大きな効果が見込めないという諦めの考えもあると認識。そのような中で、プラットフォームのように多くの関係者でつながり、みんなで取り組むことが重要である。
- ・ 1,400億円ほどの経済的損失の数値化を示すことは実態を示す上で素晴らしい事であり、アクションが必要であると認識させられた。公共交通機関の情報を発信しているが、まだ利用者には届いていないと考え努力していく所存。
- ・ PI第2フェーズは県民目線の意見が多いので、もう少し観光客視線の声でのありたい姿が反映されるとよい。
- ・ 今後について、プラットフォームの考えがあったが、レンタカー業者にも参考のご検討をいただきたい。また、信号システムなどのシステム関連もAIの導入等の中長期的な目線で検討が必要。移動の問題は観光客にとっても大きな課題であり、我々としても受け入れ体制含め努力していきたい。
- ・ 自動車も引き続き利用したい方への配慮を忘れてはならないが、当社としても渋滞緩和を目的とした時差出勤・フレックス勤務は継続していきたい。県民全体のライフスタイル転換へ向けて公共交通を利用したいと思ってもらうことが重要であり、その為のインセンティブや財政出動、社会資本の整備等の諸々の施策が実施されることを願いたい。
- ・ モノレールが重要な役割を持つと認識しており、使いやすい交通ネットワークの構築に協力していきたい。モノレールの3両化やダイヤの変更を実施しているほか、最終便が遅れた場合のダイヤの検討なども行っていく。
- ・ 広報・周知も重要であるため、メディアやマスコミも構成員の1つに入れても良いのではないか。
- ・ ライフスタイルの変換につなげるために公共交通の利便性向上も重要と認識。一方で、事業者のみでの解決は難しいものもあり、支援が必要になる。全体としてバス事業者としては非常に心強い。
- ・ プラットフォームに関して、積極的に参加していきたい。現在のタクシーの稼働率は6割ほどでまだ十分に役割を果たしていない。次年度以降は稼働率100%を目指して尽力していきたい。
- ・ 今年度から北谷に交通結節点を創出しようとしており、次年度より実証実験に入る予定。町営駐車所の一角にスペースを確保し、早ければ5月より動かしていきたいと考えている。那覇空港から北谷に移動し、そこを拠点に交通分散を図っていく。実証実験がうまくいけば、今後次の場所でも実証実験も行っていきたい。
- ・ 交通結節点の集積性を高めていくことが重要であり、十分でないと町の混雑などの弊害が出現する形になる。今後と皆様と協力のもと質の高い安定した交通手段を整備していきたい。
- ・ 文字にすると様々な課題が浮き彫りになってくる。歩いて暮らせるまちづくりや道路・交差点整備による渋滞解消等の都市計画を遂行しているが、交通の改善においてはライフスタイルの転換が重要になる。生活が大きく変容している中、自動車に関してはなかなか変わらないと感じており、官民連携して取り組んでいく必要がある。
- ・ 今回のPIについては詳しく見させていただき、住民の理解のもと持続可能な公共交通をどう続けていくかについて、関係各者の皆様と協議して進めて行きたい。また、引き続き実証事業等がある中このプラットフォームにおいて共同事務局という形で協力していきたいと考える。
- ・ 県民の皆様も課題を感じておりライフスタイルの転換への意欲が強く、心強く感じている。我々としては次年度以降それを支えていくべき。沖縄振興という観点からも持続可能な沖縄をどう作っていくかが重要。経済、暮らしを支える交通インフラを良くしていくためにも、ソフト・ハード両面で生活の質を高めていくことを皆様と取り組んでいきたい。

以上